

平成27年5月27日

## 学校法人 溝部学園財務の現状について

平成26年度の学園の収支は、収入面においては学生生徒等納付金、補助金収入が前年度に比べ大幅に増加し、帰属収入は1,470,521千円（前年比163,446千円増加）、消費支出は1,173,611千円（同16,072千円増加）となり、帰属収支差額は296,910千円（同比率20.2%）となりました。

帰属収支差額は、前年対比で147,374千円増加し、一昨年、昨年を大きく上回る黒字決算となり、財務状況は年々改善の度合いを強めている。部門別に見ても、全6部門において黒字となっており、過去最高水準の決算内容となっています。

### 1. 「収支目標」について

帰属収支差額については毎年黒字を維持し、同比率については、例年最低5%以上を目指しています。なお、平成26年度補正予算の同比率は、8.6%としていました。

### 2. 「平成26年度の収支状況」について

（平成26年度決算）

帰属収入	1,407,521千円
消費支出	1,173,611千円
差 額	296,910千円（比率20.2%）

\*今年度は、短大、歯科、高校、幼稚園、保育園の5部門で黒字決算となりました。

（収容定員充足率）

法人全体	84.9%
短期大学	77.8%

### 3. 「平成27年度補正予算」について

平成27年度の当初予算より、会計基準の変更により項目の呼び名、算出方法等が変更になっており、新基準に沿って表示しています。

(平成27年度補正予算)

経常収入 1,259,327千円

経常支出 1,196,914千円

差 額 62,413千円 (比率5.0%)

(収容定員充足率)

法人全体 86.2%

短期大学 72.4%

\*収入面については、短大、歯科、高校、幼稚園の収容人員を前年対比で、それぞれ25名減、31名減、52名増、25名増と見込んで算出している。

\*一方支出面は、耐震診断費用、耐震補強工事費用等を盛り込んだ結果、経常収支差額比率は5.0%を見込んでいます。

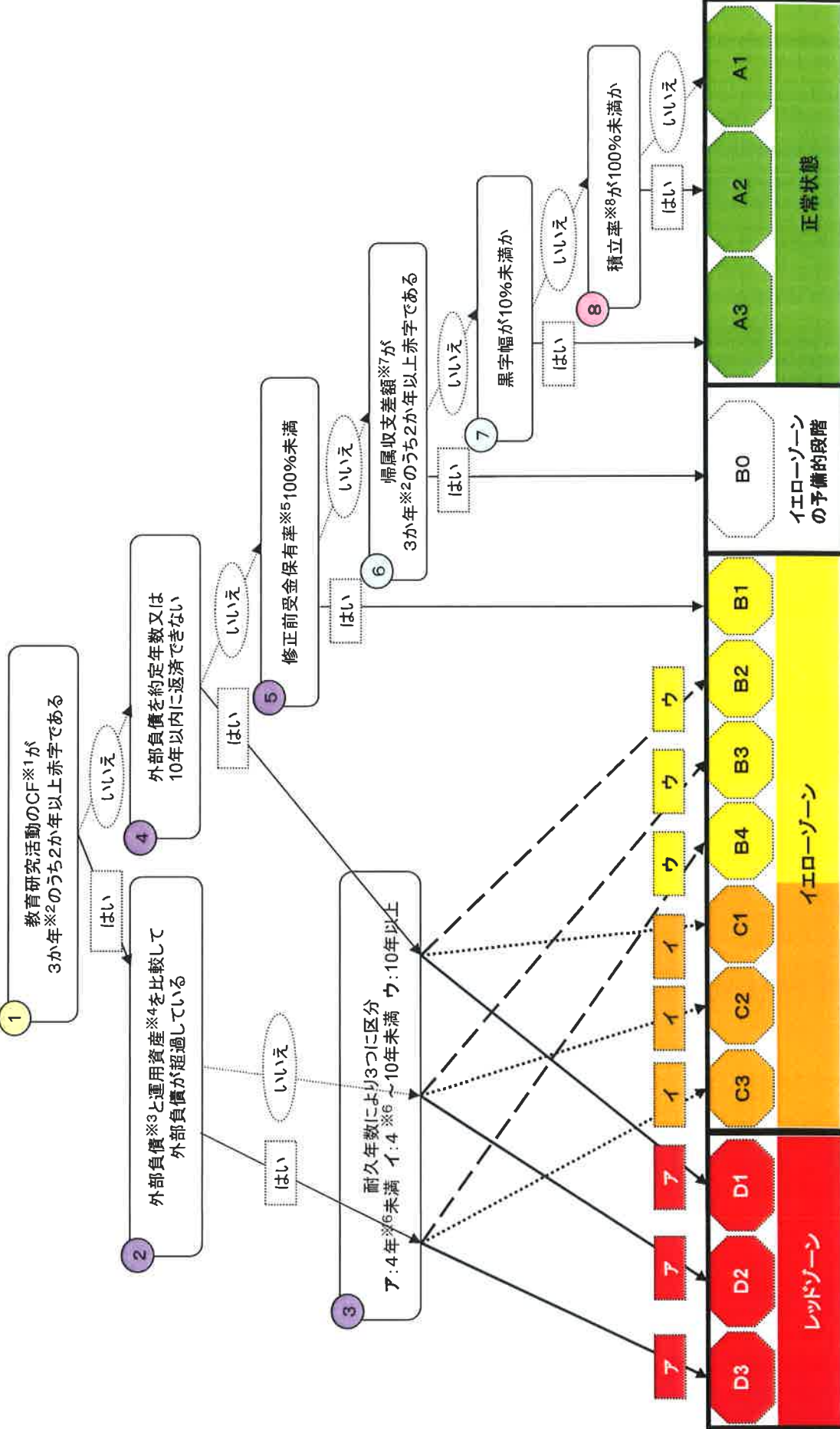
#### 4. 経営判断指標（日本私立学校振興共済事業団）による経営状態の区分について

平成26年度の経営状態の区分については、以下の判定結果よりA2ランクの「正常状態」の区分となりました。

- ① 教育研究活動のCFは、3か年のうち2年以上連続黒字の状態である。
- ② 外部負債は約定年数または10年以内に返済できる。
- ③ 修正前受金保有率の100%以上である。
- ④ 帰属収支差額については、3か年のうち2年以上黒字となっている。
- ⑤ 黒字幅が10%以上である。(20.2%)
- ⑥ 積立率が100%未満である。……ここが、100%以上であればA1ランクとなる。

以上6項目の指標における判定結果が3年連続A2ランクとなり、12ランク中2番目に位置し、「正常状態」にあたる区分となっています。

# 定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分(法人全体) 平成25年度版



※1: 教育研究活動のCF = 教育研究活動CF収入(学納金収入+前受金収入+前期末前受金+手数料収入+一般寄付金収入+補助金収入(施設除く)+資産運用収入+事業収入+雑収入)-教育研究活動CF支出(人件費支出+教研費支出+管理経費支出+借入金等利息支出)  
 ※2: 3か年とは、一昨年度、昨年度の決算実績及び今年度決算見込みの3か年を指す  
 ※3: 運用資産 = 現金預金 + 有価証券 + 特定預金(資産) ※4: 外部負債 = 借入金 + 学校債 + 未払金  
 ※6: 原則として修業年限を基準に設定する。例えば、大学法人の場合は「4年」、短期大学法人の場合は「2年」となる ※5: 修正前受金保有率 = 運用資産 ÷ 前受金  
 ※7: 帰属収支差額 = 帰属収入 - 消費支出 ※8: 積立率 = 運用資産 ÷ 要積立額(減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 2号基本金 + 3号基本金)